

十種香の段

本朝廿四孝

(五四・八後)

◇配

役◇

八重垣姫	竹本小春 太夫
武田勝頼	竹本相生 太夫
濡衣	豊竹つばめ 太夫
長尾謙信	豊竹和泉 太夫
原小文次	竹本さの 太夫
白須賀六郎	竹本津の子 太夫
三味線	鶴澤友次郎

武田、上杉兩家は法性の兜のことで確執してゐたが、將軍足利義晴が暗殺されたので三年間、合戦を止め、その間に曲者を探



はん大望を抱いてゐたが戀人の死に際會して心を離し、武田家のために上杉家から法性の兜を取返さうと上杉家に腰元となつて仕へる、養作の勝頼も曲者の詮義と幼君松壽君守護と横領された法性の兜奪還のために花作りとなつて上杉家へ入り込む、十種香の段はこれに續く物語である

法性の兜

火狐の奇瑞

上杉家の八重垣姫は、かねて兩家和解のために武田家の勝頼と許婚の仲であつた、切腹したのは偽の勝頼とは露知らず殿御の姿を繪に描かせ十種香を焚いて回向する八重垣姫、同じ思ひの濡衣、そこへ花作りに化した眞の勝頼が現れたので三人の間に解せぬ戀の謎が生じる、謙信はこれを看破して使に出し追手をやつて討たうとする、八重垣姫は法性の兜に勝頼の無事を祈ると忽ち狐火の奇瑞が現れる

案すること、もし出来なければ兩家は互に一子勝頼、景勝の首を打つて渡すことを誓つた、三年は無爲に過ぎた、信玄の息勝頼は板倉兵部といふ奸臣のために幼時より民間に育ち花作り養作と呼ばれ、瓜二つの兵部の子が勝頼と名乗つてゐたために幸に偽の勝頼が切腹して、その首が渡された、この偽の勝頼と戀仲の腰元濡衣は將軍を狙撃した齋藤道三の娘で父の意を受け武田、上杉兩家を亡して天下を奪